

令和2年度 在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院・
在宅時医学総合管理料および施設入居時等医学総合管理料
届出施設調査 結果のまとめ

令和3年2月

福岡県 高齢者地域包括ケア推進課

調査の概要について

1 目的

- ・本県の在宅医療の現状等を把握し、在宅医療にかかる連携体制構築の進捗状況の評価を行う。
- ・過去の調査結果と比較し、課題を分析することで、保健医療計画や在宅医療の推進に反映させる。

2 調査実施日

令和2年6月22日

3 調査対象と回収率

令和2年6月1日現在、九州厚生局に以下の届出を行っている県内の医療機関(1,298か所)を対象とした。

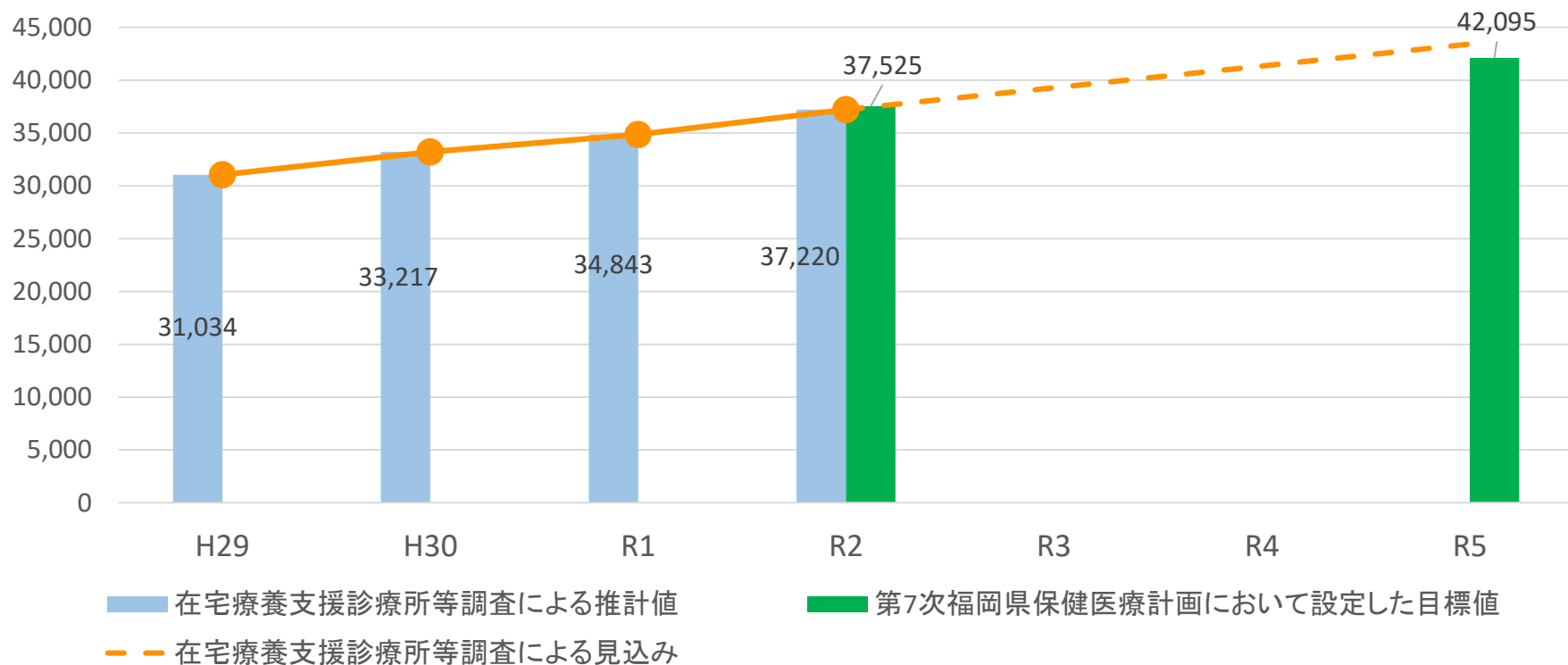
・在宅療養支援診療所	796か所	(回収数 763か所	回収率 95.9%)
・在宅療養支援病院	93か所	(回収数 84か所	回収率 90.3%)
・在医総管(診療所・病院)	409か所	(回収数 382か所	回収率 93.4%)

調査票回収率(二次医療圏別)

	調査 対象数	回収数	回収率
福岡・糸島	374	354	94.7%
粕屋	47	43	91.5%
宗像	35	34	97.1%
筑紫	61	58	95.1%
朝倉	34	33	97.1%
久留米	163	150	92.0%
八女・筑後	45	43	95.6%
有明	72	71	98.6%
飯塚	43	41	95.3%
直方・鞍手	34	34	100.0%
田川	26	25	96.2%
北九州	323	302	93.5%
京築	41	41	100.0%
福岡県	1,298	1,229	94.7%

訪問診療患者数(推計値)及び目標値

・訪問診療患者数(推計値)は着実に増加しており、目標値に向けて順調に進捗している。



※在宅療養支援診療所等調査とは、「在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院・在宅時医学総合管理料および施設入居時等医学総合管理料届出施設調査」を指す。

※訪問診療患者数の見込み(R3～R5)の考え方: H29からR2における1年間あたりの増加人数の平均(2,062人)が、毎年増加すると仮定

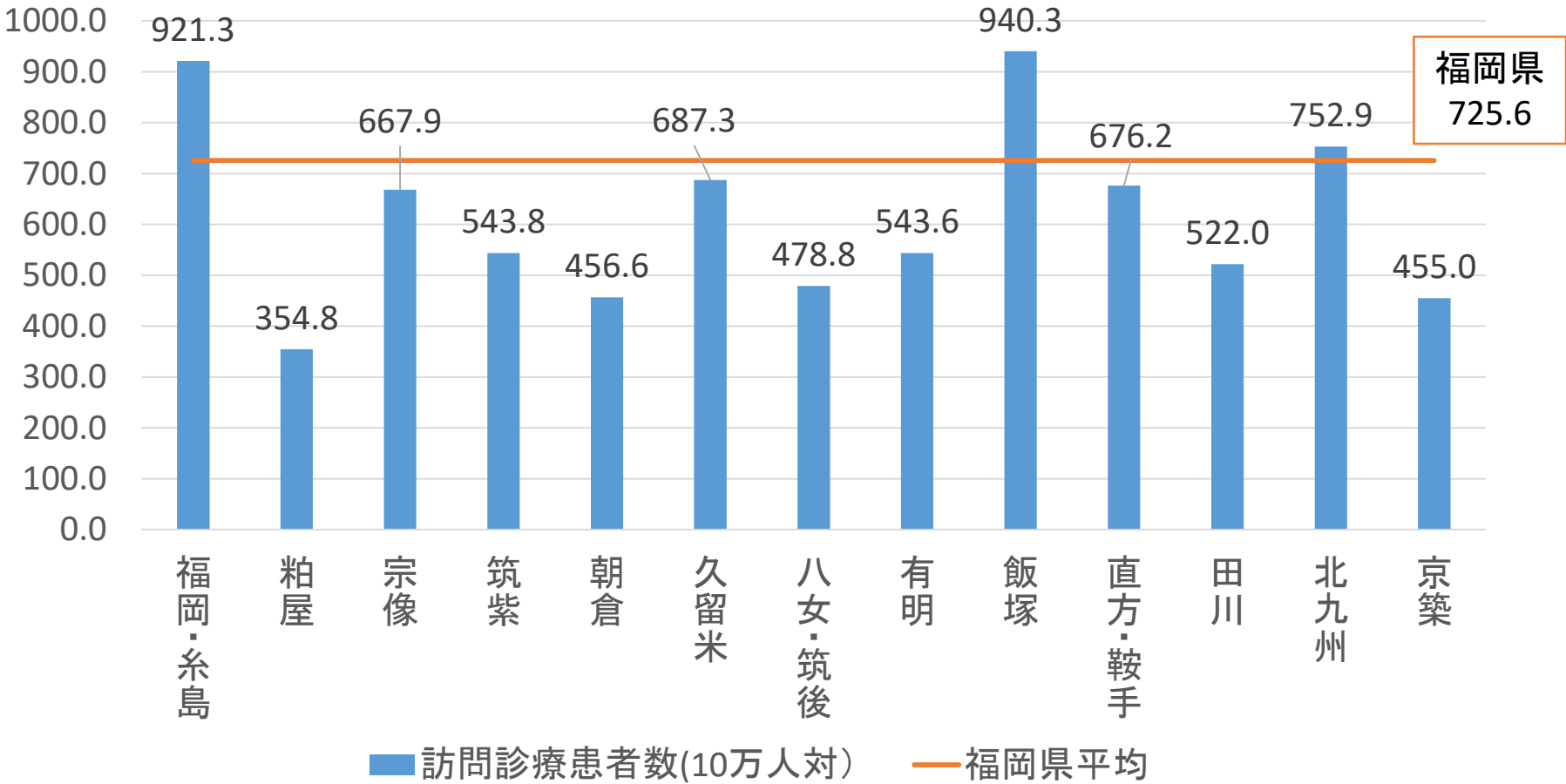
※H29の訪問診療患者数(31,034人)について

平成29年度調査結果において、H29の訪問診療患者数(推計値)は、H29の推計法(3区分毎に推計)にて算出した「31,256人」と報告しているが、H30からは8区分毎に推計することとしており、H30以降の訪問診療患者数(推計値)と比較するため、H29の訪問診療患者数をH30の推計法にて推計した。

訪問診療患者数(二次医療圏別・対10万人) ※推計値

・人口10万人あたりの訪問診療患者数を比較すると、最多が飯塚の940.3人、最少が粕屋の354.8人で、その差は約2.7倍である。

・13圏域中、福岡県平均(725.6人)を上回っているのは3圏域、下回っているのは10圏域である。

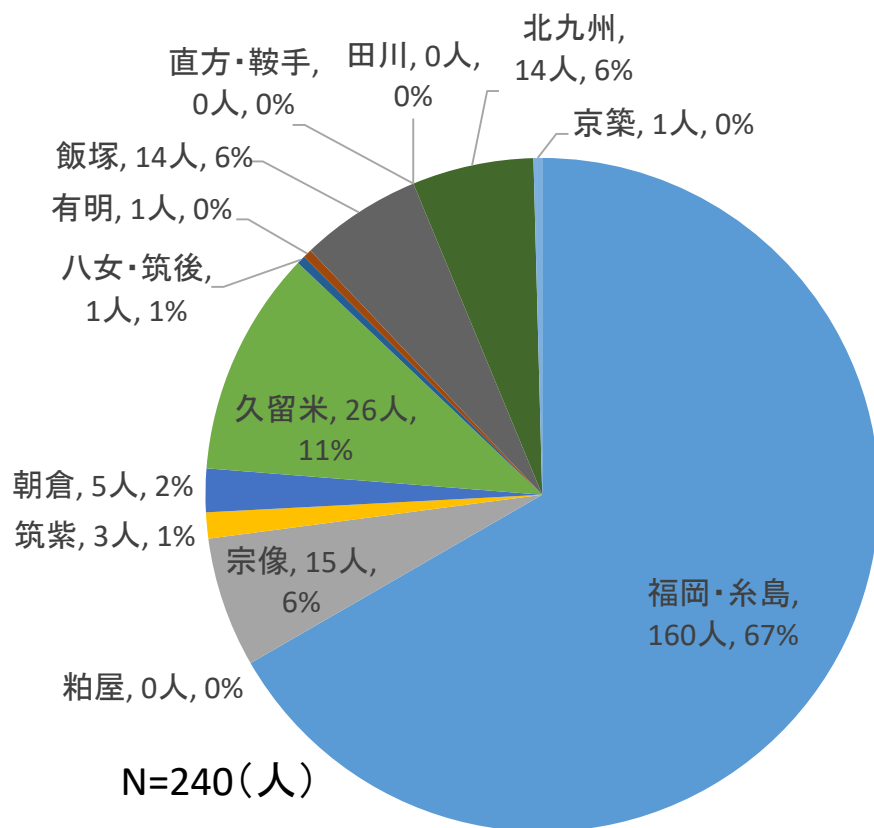


19歳以下の訪問診療患者数(年次比較)

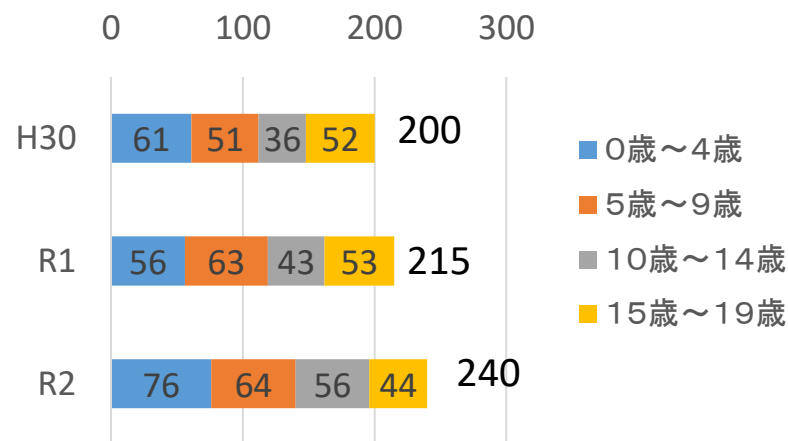
※実数

- ・19歳以下の訪問診療患者数は増加傾向にあり、医療機関数はおおむね横ばいで推移している。
- ・19歳以下の訪問診療患者数(令和2年度)を圏域別に比較すると、福岡・糸島圏域(160人)が県全体(240人)の67%を占める一方、3圏域(粕屋、直方・鞍手、田川)は0人であり、圏域により取組状況が大きく異なっている。

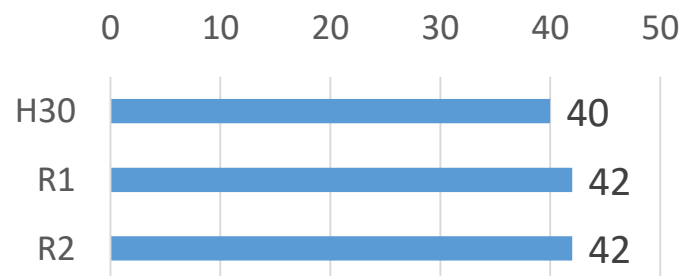
19歳以下の訪問診療患者数(圏域別)



19歳以下の訪問診療患者数



19歳以下の患者に訪問診療をしている医療機関数

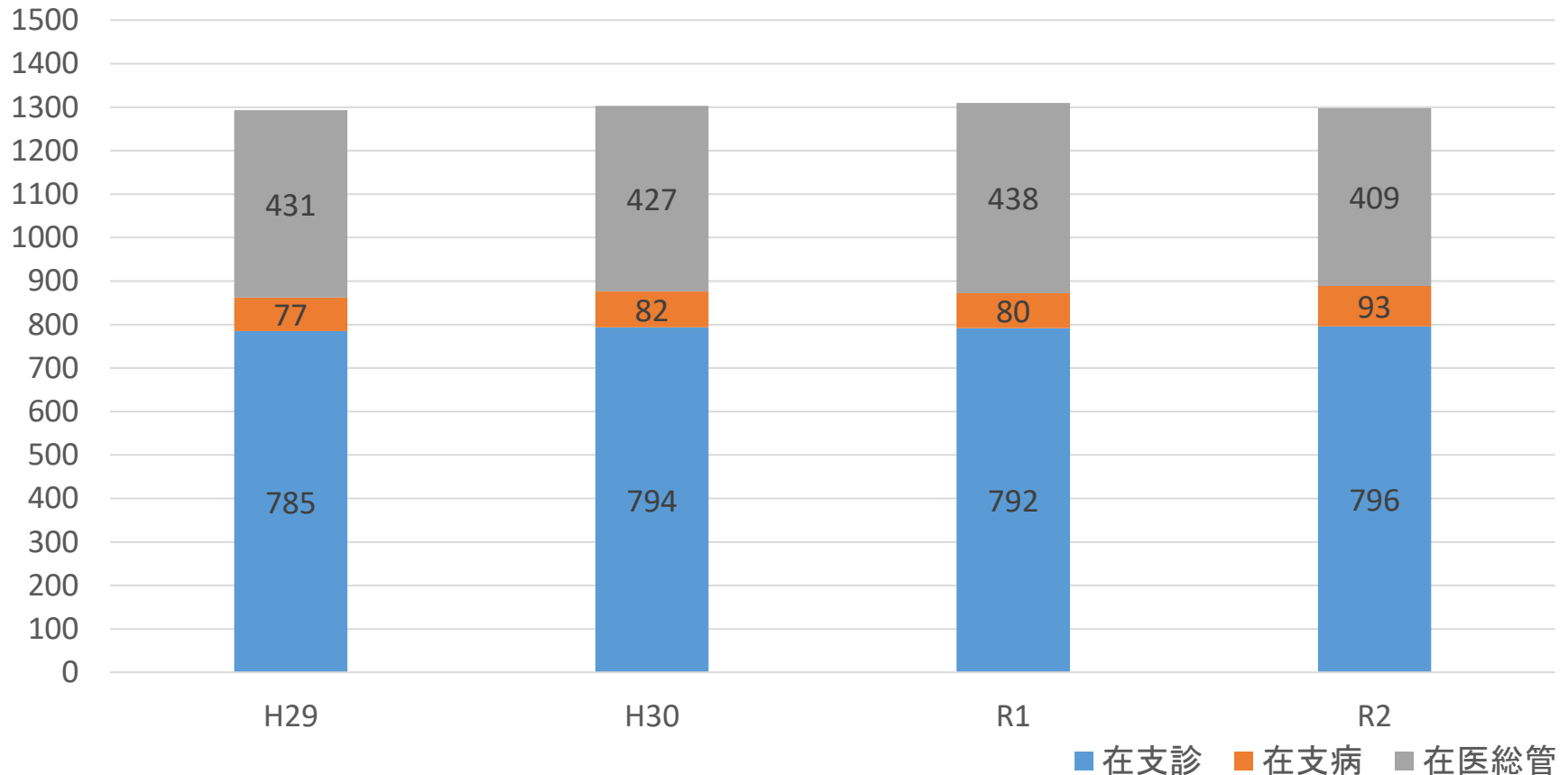


「19歳以下の訪問診療患者数」とは、1か月間に訪問診療の算定を行った患者のうち、19歳以下の人数を指す。

在支診・在診病・在医総管を届け出ている医療機関数 (年次推移)

※実数

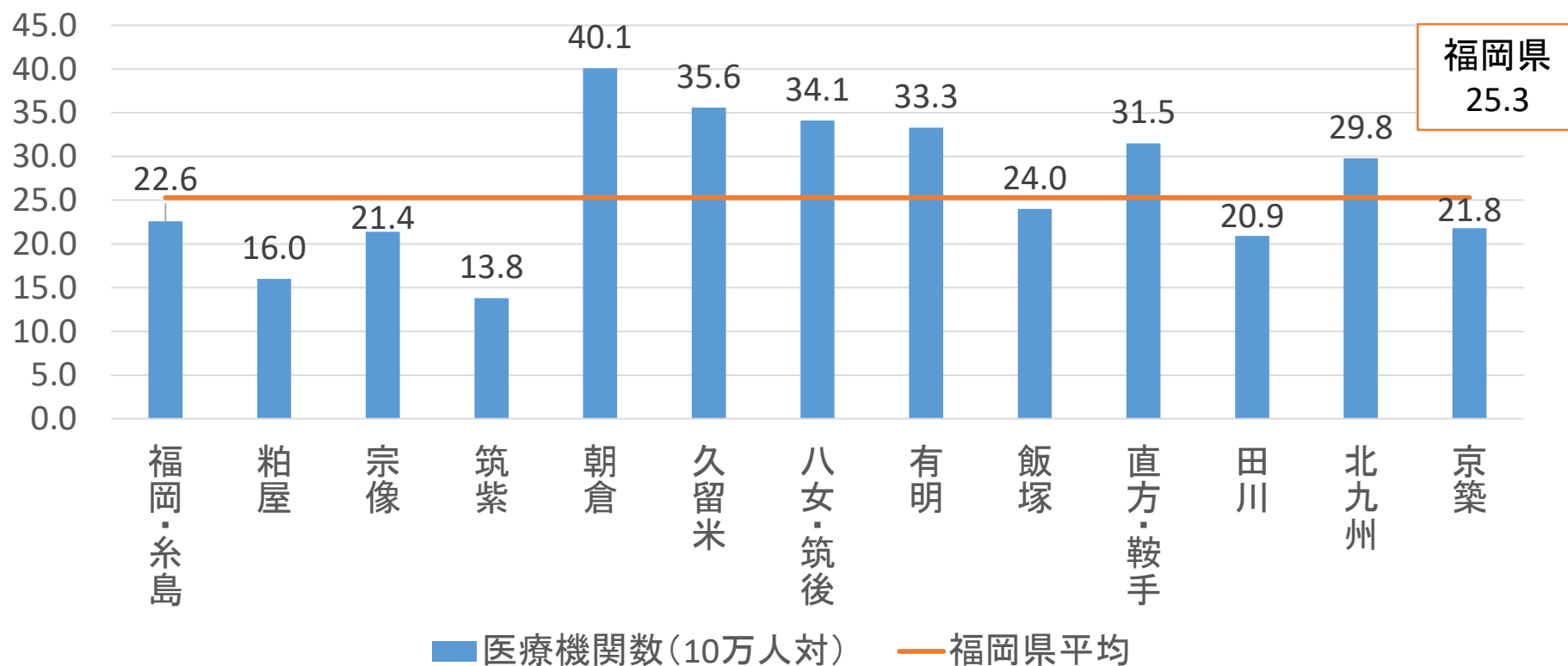
- ・在宅療養支援診療所数は、おおむね横ばいで推移している。在宅療養支援病院数は、増加傾向にある。在医総管を届け出ている医療機関数は、令和元年度から令和2年度にかけて減少している。
- ・全体の医療機関数はおおむね横ばいで推移している。



在支診・在診病・在医総管を届け出ている 医療機関数(二次医療圏別・対10万人)

・人口10万人あたりの医療機関数を比較すると、最多が朝倉の40.1か所、最少が筑紫の13.8か所で、その差は約2.9倍である。

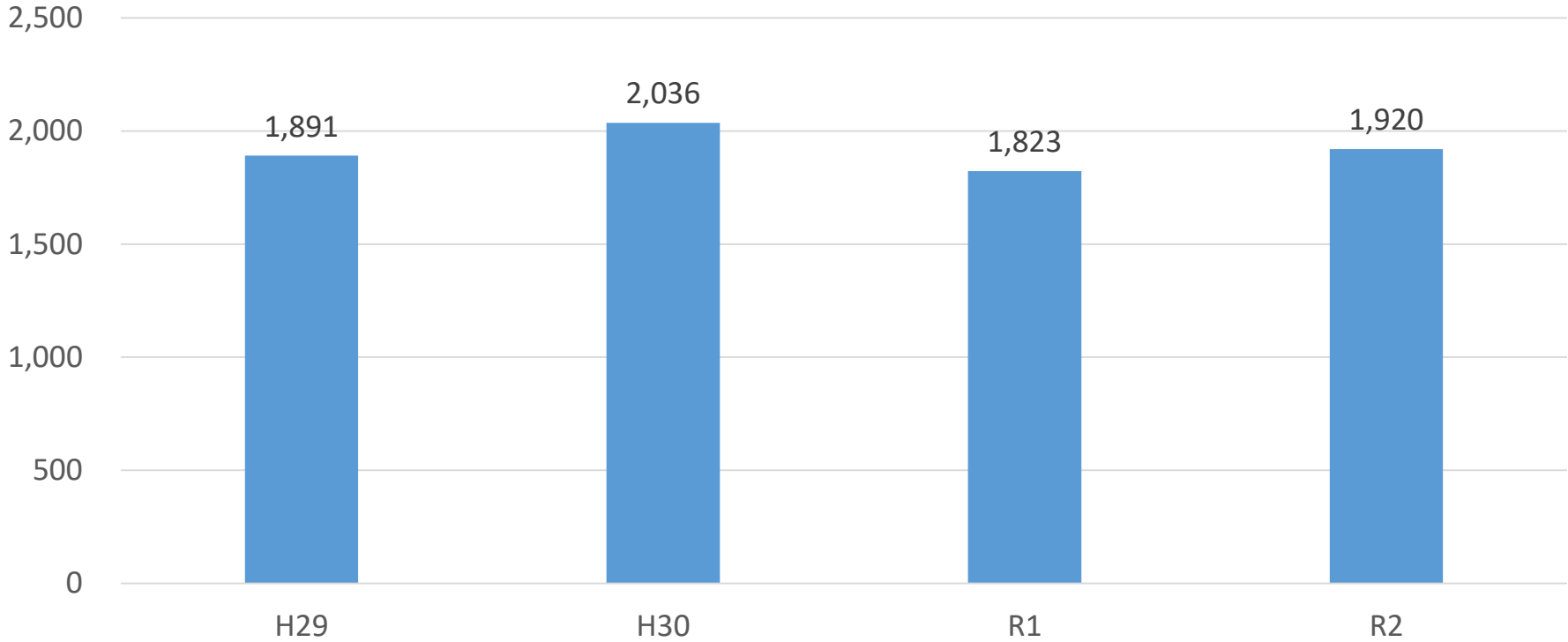
・13圏域中、福岡県平均(25.3か所)を上回っているのは6圏域、下回っているのは7圏域である。



在支診・在診病・在医総管に勤務する医師数(年次推移)

※推計値

・医師数(推計値)は、1,800人～2,000人前後で推移している。



※「在支診・在支病・在医総管に勤務する医師数」とは、常勤換算した医師数を指す。

※推計値について
平成24年度～H28年度は2区分(在支診・在診病)、平成29年度は3区分(在支診・在診病・在医総管)に分けて推計し報告しているが、平成30年度からは届出を8区分(在支診1～3、在診病1～3、在医総管(診療所・病院))に分けて推計することとしており、年次比較をするため、平成24年度～28年度までの訪問診療患者数は6区分(在支診1～3、在診病1～3)、平成29年度は7区分(在支診1～3、在支病1～3、在医総管)に分けて推計し直している。なお、平成29年度は在医総管を診療所と病院に分けて調査を行っていないため、7区分で推計し直している。

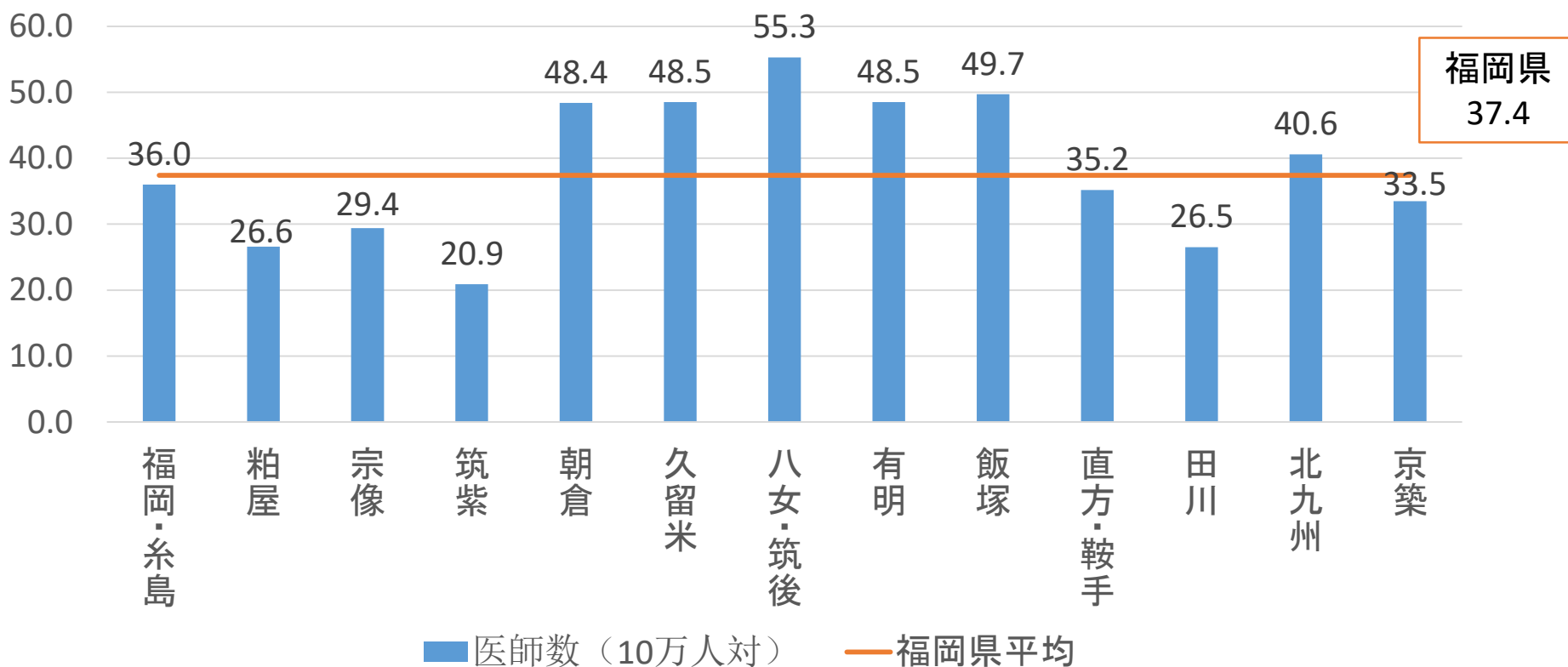
※病院については、在宅医療に対応している医師数のみを集計

在支診・在診病・在医総管に勤務する医師数 (二次医療圏別・対10万人)

※推計値

・人口10万人あたりの医師数を比較すると、最多が八女・筑後の55.3人、最少が筑紫の20.9人で、その差は約2.6倍である。

・13圏域中、福岡県平均(37.4人)を上回っているのは6圏域、下回っているのは7圏域である。



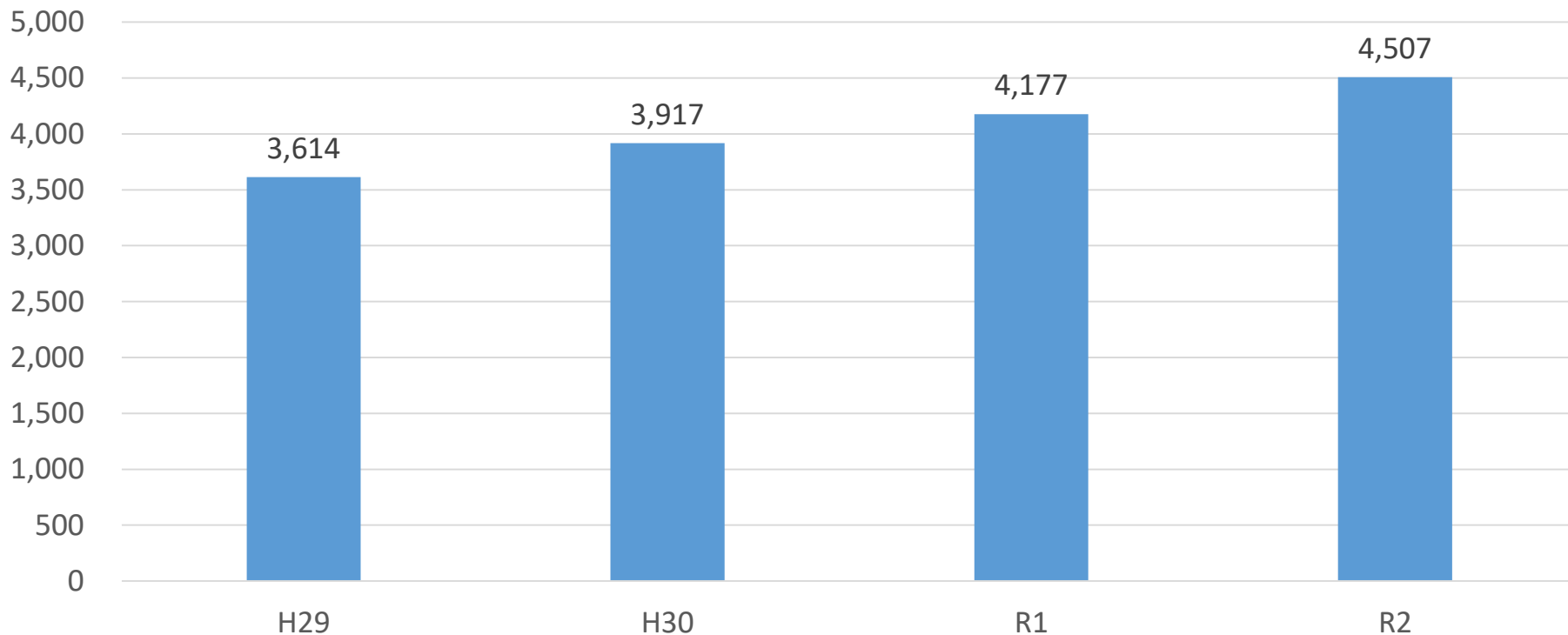
※病院については、在宅医療に対応している医師数のみを集計

※医師数は常勤換算したもの。

在宅看取り患者数(年次推移)

※推計値

・在宅看取り患者数(推計値)は増加傾向にあり、毎年300人前後増加している。



※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。(H24～H28については、4月～7月までの4ヶ月に在宅で看取りを行った人数を3倍した人数を指す。)

※推計値について

平成24年度～H28年度は2区分(在支診・在診病)、平成29年度は3区分(在支診・在診病・在医総管)に分けて推計し報告しているが、平成30年度からは届出を8区分(在支診1～3、在診病1～3、在医総管(診療所・病院))に分けて推計することとしており、年次比較をするため、平成24年度～28年度までの訪問診療患者数は6区分(在支診1～3、在診病1～3)、平成29年度は7区分(在支診1～3、在支病1～3、在医総管)に分けて推計し直している。なお、平成29年度は在医総管を診療所と病院に分けて調査を行っていないため、7区分で推計し直している。

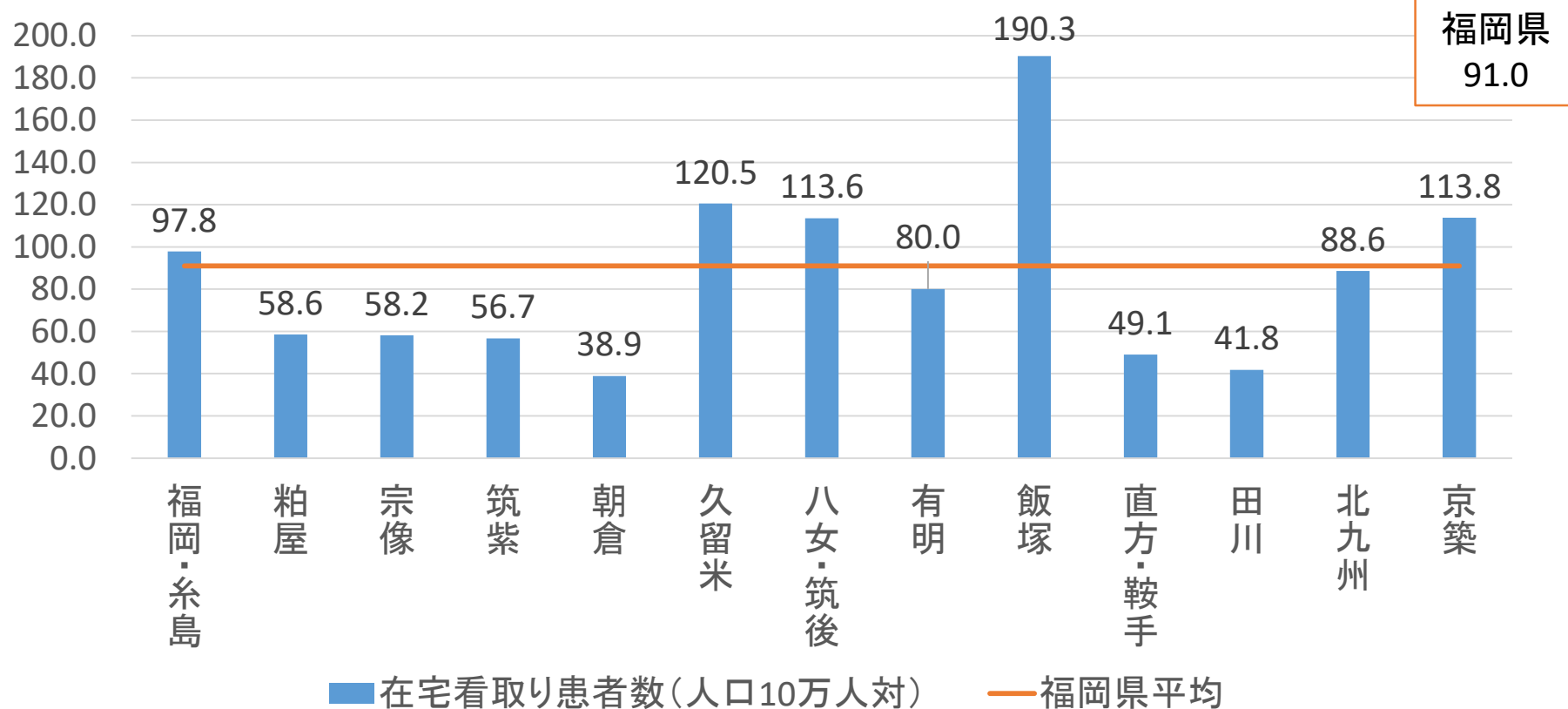
※65歳以上人口1万人対の数値は、推計値(小数点以下をすべて含んだ数値)をもとに算出し、平成30年度に報告しているが、令和元年度からは、推計値(小数点第1位までで四捨五入し、整数にした数値)をもとに算出し直しているため、前回示した数値と差が生じる地域がある。

在宅看取り患者数(二次医療圏別・人口10万人対)

※推計値

・人口10万人あたりの在宅看取り患者数を比較すると、最多が飯塚の190.3人、最少が朝倉の38.9人で、その差は約4.9倍である。

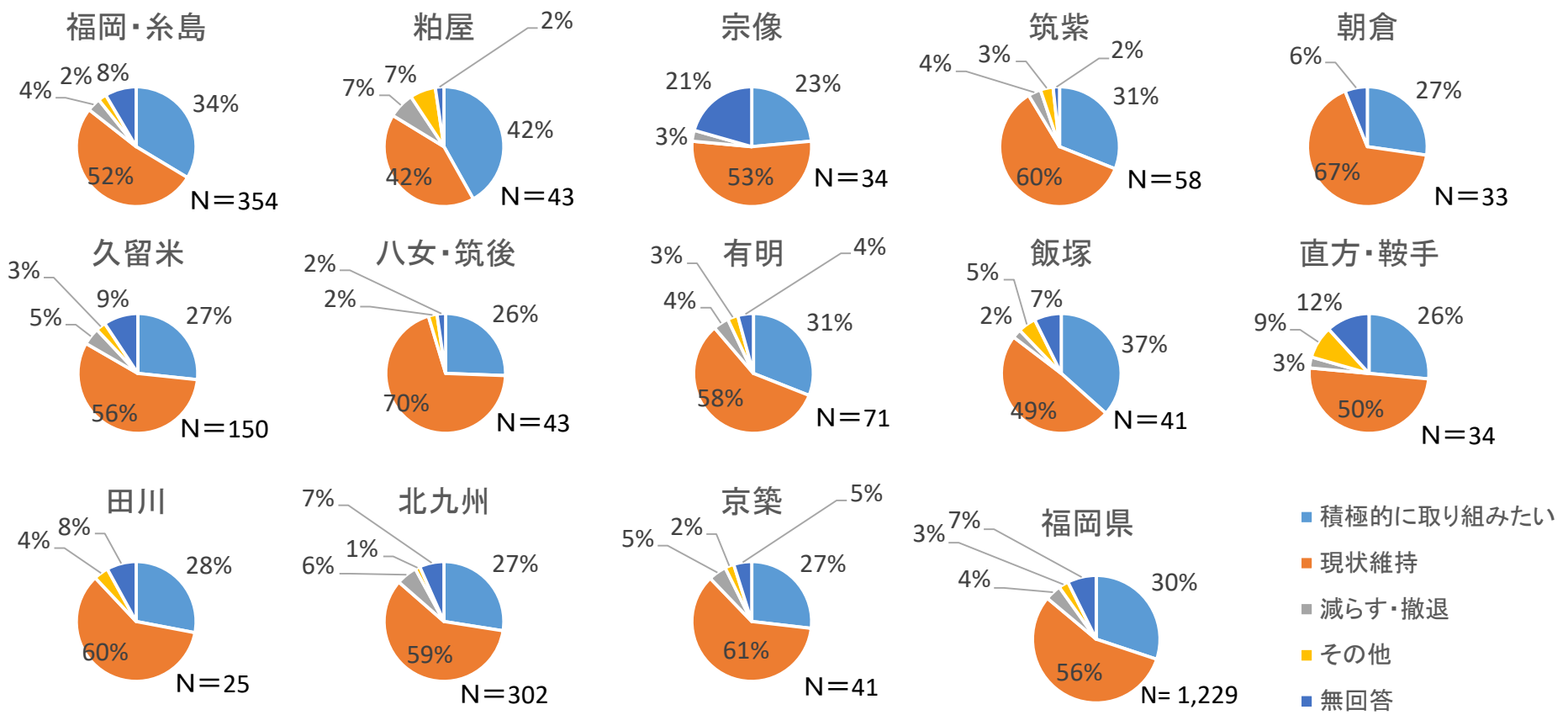
・13圏域中、福岡県平均(91.0人)を上回っているのは5圏域、下回っているのは8圏域である。



今後の在宅医療への取り組み予定

・今後の在宅医療への取り組み予定について、「積極的に取り組みたい」と回答した医療機関は30%、「現状を維持する」と回答した医療機関は56%、「今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定」と回答した医療機関は4%である。

・二次医療圏別に比較すると、「積極的に取り組みたい」と回答した医療機関が最も多いのは粕屋(42%)、「その後は減らす、または在宅医療から撤退する予定」と回答した医療機関が最も多いのも粕屋(7%)である。



- 積極的に取り組みたい
- 現状維持
- 減らす・撤退
- その他
- 無回答

3年後(令和5年度)に増やすことができる訪問診療患者数

- ・今後の在宅医療への取り組み予定について、「現在より積極的に取り組む」と回答した医療機関(370か所)における、3年後に増やすことができる訪問診療患者数は6,467人である。
- ・二次医療圏別に比較すると、最多が福岡・糸島(2,649人)、最少が朝倉(62人)である。

